

「井の中の蛙」にならないように

「ピント外れの勉強」その二を期待していた人もいるでしょうが、今日は「今だからこそ考えてほしい」というタイムリーな話題について書きます。その二は近いうちに書きますからね。二十二日正午をもって、公立高校の出願が締め切られました。東濃地区の高校で言いますと、多くの学校で倍率一倍を切っています。つまり、募集人員より出願者数の方が少ないわけで、数字を見ると、「ひとまず安心」と思える状況になっています。倍率の大きいのは土岐商業高校ビジネス科、中津商業のビジネス科、そして、恵那高校の理数科です。とりわけ恵那高校の理数科は十九人オーバー。普通科へのスライドがありますので、恵那高校を不合格となるのは恐らく十七人となることでしょう。この数字を皆さんはどう思いますか。恵那高校を受検する人にとっては、入試までの勉強に気合を入れてくれる数字である一方で、「まさかその中に自分が……」ということが頭をよぎるドキドキの数字でもあるでしょうね。

しかし、皆さんに見てほしいのはこの数字ではありません。東濃地区に住んでいるからついこの辺りの高校の出願者数に目が向きます。見てほしいのは、他地区の高校の出願者数です。とりわけ、岐阜地区、大垣地区の高校を見てください。

例えば、新聞発表の一覧の先頭に載っている岐阜高校を見てください。募集人員三百六十人のところに出願者は四百二十五人です。普通科のみの学校ですので、六十五人が不合格になります。二番目の岐阜北高校も六十三人オーバー。文武両道を目指している長良高校に至っては、七十八人があふれてしまうということになります。

厳しい数字ですね。恵那高校の十七人も少なく思えてしまいますね。東濃地区ではありえない数字です。「岐阜地区や大垣地区でなくてよかった」と思った人も多いのではないでしょうかね。

地区が違えば、志願者数、私立公立の高校数、進路に対する考え方が異なります。地区それぞれの特徴が出るのは当たり前のことです。しかし、同じ中学三年生であること、だれの心にも進学したいという意思があること、第一志望を目指して今努力していること、押しつぶされそうな不安の中に身を置いて頑張っていることは、どの地区の生徒にも共通しています。

厳しい状況の中で必死になっている同じ中学生がいることを刺激にして、自分を叱咤激励（しったげきれい）してください。三年生だけではありません。自分は頑張っているつもりでも、自分以上に厳しい状況の中でもがいている中学生はいるのです。

「井の中の蛙」になって、限られた範囲の中で満足しないようにね。世の中には自分より努力している人はたくさんいるものです。（自戒の意味を込めて）

（二月二十五日 記）